

【人文社会系（社会科学）】

ゲーム理論のフロンティア：理論と応用

おかだ あきら
岡田 章

（一橋大学・大学院経済学研究科・教授）

【研究の概要等】

現代社会のグローバル化が急速に進行するにつれて、経済主体の間の相互依存関係は人間、企業組織、地域、国家などのあらゆるレベルでますます多様化している。その結果、協力の可能性が拡大するとともに、さまざまな利害の対立が生じている。地球環境問題や金融市場の国際化に伴う市場システムの不安定性などはその一例である。このような現代経済の新しい問題の背景には、不確実性、外部性、市場の非完備性、複雑系システム、不完全情報、戦略的行動などゲーム理論が分析対象とする要因が本質的に介在している。

本研究の目的は、「利害が異なる個人は、制度、市場、組織を通じていかにして効率的で衡平な社会状態を実現できるか」という基本テーマを考察するために、ゲーム理論の先端的な研究分野を、(1) 市場システムの動学・非完備情報ゲーム分析、(2) 組織・情報・インセンティブのゲーム分析、(3) 政治経済学のゲーム分析、の三つのサブテーマに大別し、経済システムにおける制度、市場、組織、人間行動の間の相互連関を認知、感情、合理性、限定合理性、戦略的行動、情報、進化、慣習などの多様な視点から総合的に解明することである。

【当該研究から期待される成果】

本研究の遂行によって、わが国のゲーム理論研究が一段と推進され、ゲーム理論の国際的な研究拠点としてのわが国の学術基盤が強化され、本研究組織のメンバーを中心とする国際的な研究ネットワークが構築されることが期待される。また、経済学における一般均衡理論をさらに発展させ、市場メカニズムが有効に機能しない原因とされる、不確実性、非完備市場、外部性、組織、国際政治経済などの問題に対する経済分析が格段と向上することが期待される。

【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

- ・岡田 章、『ゲーム理論』，有斐閣，1996年。
- ・岡田 章、『ゲーム理論の新展開』（今井晴雄と共編），勁草書房，2002年。

【研究期間】 平成20年度－24年度

【研究期間の配分（予定）額】

139,600,000 円（直接経費）

【ホームページアドレス】

<http://wakame.econ.hit-u.ac.jp/~aokada/>